五～七月	御木曳行事（第一次）			旧神領民や全国の崇敬者によって、御用材を宮域内に曳き入れる行事。	
七月	仮御樋代木伐採式			遷御に際して神儀を納め奉る仮御樋代及び仮御船代の用材を伐採するにあたり、御杣山で行われる式。木本に坐す神を祭る。	平成十九年（二〇〇七）
五～七月	御木曳行事（第二次）			第一次に同じ。	
四月	鎮地祭	○	●	新宮を建てる新御敷地で行われる最初の祭儀で、大宮地に坐す神を祭る祭儀。地曳祭ともいう。	平成二十年（二〇〇八）
十一月	宇治橋渡始式			新しく架け替えられた宇治橋を古式により、渡女を先頭に全国から選ばれた三世代揃いの夫婦が渡り始める式。	平成二十一年（二〇〇九）
三月	立柱祭		●	御正殿の御柱を立て、小工が打ち固める祭儀。	
三月	御形祭			御正殿東西の妻の短柱に御形を穿ち奉る祭儀。御鏡形とも称し、円形の図様を穿つ秘祭。立柱祭に続いて行われる。	
三月	上棟祭		●	御正殿の御棟木を揚げる祭儀。御正殿が古式に則った位置にあるか否かを測量する丈量儀があり、大宮司以下が棟木から延ばされた綱を引いて棟上げの所作をし、「千歳棟、万歳棟、曳曳億棟」のかけ声と共に屋上の小工が棟木を打ち固める。	平成二十四年（二〇一二）
五月	檐付祭			新殿の御屋根の葺き納めの祭儀で、甍覆・千木の逆輪など金物を打ち奉る。	
七月	甍祭			新殿の御屋根の葺き始め奉る祭儀。	